```
language-and-engineering / android-mvc-framework
                                                                                      Ÿ Fork 0
                                                                            ★ Star 10

    Watch 

▼

                 Pull requests 0 Actions Projects 0 Wiki Security
                                                                  ılı Insights
 <> Code
        (!) Issues 0
          android-mvc-framework / ProjectHome.md
                                                                                       Copy path
 Branch: wiki -
                                                                                 Find file
 GoogleCodeExporter Migrating wiki contents from Google Code
                                                                               d1bcd1d on 25 Mar 2015
 1 contributor
                                                                               History
 353 lines (288 sloc) 12.6 KB
                                                                     Raw
                                                                         Blame
  Androidアプリの開発を支援する,Java製フレームワーク
   「Android-MVC framework」は、MVCの全層をフルスタックでカバーします。
    • Strutsのようにスタンダードな設計パターンを提案し、
    **Railsのように「CoC」**なDSLを提供し、
    • jQueryのように流れるスタイルのコーディングができ,

    HTML5やjQuery Mobile などのWeb技術を使った、素早いUI構築が可能。

   そんなオープンソースのフレームワークを目指しています。
  最新バージョンに関する情報:
    • ver 0.3がリリースされました。 こちらのページで、新バージョンの機能とサンプルコードを概観できます。 (2012/7/30)
    • ver 0.3を使ったAndroidアプリケーション開発手順は、こちらのページに公開されています。 (2012/11/30)
  サンプルアプリ
   右図のUIは、現在地の情報をアイコンでリアルタイムに描画します。
   このUIを実現するためには、下記のようなJavaコードをコーディングします。
  XMLなどは一切、手を触れません。
     new UIBuilder(context)
     .add(
      layout1 = new MLinearLayout(context)
        .widthFillParent()
        .heightPx(600)
        .add(
          // GoogleMap。
          // 自分の現在地を追跡し,
          // なおかつ足跡の履歴をアイコン表示する。
          map1 = new MMapView(context)
           .widthFillParent()
           .heightFillParent()
           .touchable()
           .showZoomControl()
           .zoomToMaxDetail()
           // GPS関連
           .followMyLocation() // 自分の現在地を追跡し続ける
           .gpsLookupPeriod( 10 * 1000 )
           .onMyLocationChanged(new MapLocationListener(){
             @Override
             public void onLocationChanged( Location location )
              UIUtil.longToast(context,
               "マップが現在位置の変更を検出。\n"
                + String.valueOf(location.getLatitude()) + ","
                + String.valueOf(location.getLongitude())
              );
              FuncDBController.submit(activity);
           })
           // マップ上に描画するアイコン関連
           .setIconsOverlay(
             new IconsOverlaySettings()
               .setIconImage(android.R.drawable.sym_def_app_icon)
              .setItemsList( getLocationLogItemsList() )
      toggle1 = new MToggleButton(context)
        .text0n("現在地を追跡中")
        .text0ff("現在地の追跡を開始する")
        .checked()
        .onCheck( new CheckBox.OnCheckedChangeListener(){
          @Override
          public void onCheckedChanged(CompoundButton src,
                            boolean isChecked) {
           if( isChecked )
             map1.followMyLocation();
           else
             map1.stopFollowMyLocation();
        } )
     .display();
  シンプルで、直感的で、XMLより書きやすく読みやすい。 そう思いませんか?
  *その他、サンプルの詳細な仕様についてはこちらのページの末尾をご覧ください。
   クイックガイド
    • ver 0.2は, こちらのページで, 導入された新機能とサンプルコードを概観できます。 (2012/3/23)
    • ver 0.1は, このページで, 全体のクラス設計の概要を見る事ができます。 (2012/2/20)
    • さっそく使ってみるには、「3ステップで完了する導入手順」をご覧ください。
    • 最新のリリース情報やニュースは、新着情報のページからご確認ください。
  ダウンロード:
    • 「Downloads」タブから、zip形式でダウンロードできます。
    • 「Source」タブに、SVNでのチェックアウト方法が記載されています。
    • 「Source」タブで「Browse」すると、全ファイルのソースコードを閲覧できます。
```

• サヨナラ, XML ... Come on, jQueryスタイル! 。 jQuery風の流れるようなスタイルでJavaコードを記述。 。 レイアウトXMLに全く手を触れず,最小限の手間でUIを構築できます。プロトタイピングにも最適。 。 あの面倒な findViewByld() は、もう書かなくて済みます。

シンプル!

View層

フレームワークの特徴

本フレームワークは、迅速かつ堅牢なAndroidアプリ開発をサポートします。

。 もちろん, レイアウトXMLを利用することも可能です。

タブ構造とオプションメニューを軽々生成

レイアウトXML利用時のCoCなUI割り当て

• MapView設置とオーバーレイ描画が簡単

。 GPS検出処理もライブラリ化済み。

• これならAndroid上で使える! ORマッピング

。 CRUD機能は用意済みです。

ドメインとビジネスロジックの枠組み

非同期タスクの制御管理を明白に

サービス・バッチも楽々配置

。 アプリの設定項目の集約。

。 楽すぎるリソース呼び出し。

お手軽なテーブル構築

アプリ初期化の枠組み

Controller層

さらに・・・

• HTML, JavaScript, HTML5, jQuery Mobileを使って画面が作れる

。 やはり面倒な「Adapter」も、もう作らなくて済みます。forループ内で「リスト」の行を動的に追加するだけ。なんと

○ Web制作技術や、Webデザインのノウハウを最大限まで生かして、既存のリソースで素早いアプリ開発ができます。

。 SQLiteのシンプルさと、Javaオブジェクトの柔軟さを橋渡しします。 (論理エンティティと物理エンティティの相互変

。 XMLに全く手を触れず、簡単なJavaコードを書くだけで、オプションメニューやタブを実現できます。

。 Activityの名称から、レンダリングすべきXMLを自動的に判断。いちいち指定する手間を省きます。

。 複雑なUIを記述するためにXMLを利用する場合でも,手間を軽減する仕組みがあります。

Model層

。 わかりやすいライブラリ・サンプル・及び設計パターンを提供。

。 Railsのマイグレーションのように, Javaコードでスキーマ構築が可能。

インストール直後のセットアップ処理もサクサク実装しましょう。

コールバックの連鎖でお困りですか?その悩みも、もはや今日まで。

。 どこに書いたらいいのか, もう迷う事はありません。

• 画面遷移の制御など、Struts相当の処理をコントローラ層に集約

その他、アプリ全体の開発をスピーディーにさせる要素たち

。 詳しい出力で、とってもお手軽なロギング。

。 スパゲッティな画面遷移に悩まされることは、もうありません。

もちろん、これらの機能を使わないで済ませることも可能です。

デフォルトの初期化フローが準備されています。

マップ連携アプリの手間を極限まで減らそうとしています。

```
その他、HTTP通信のユーティリティを組込み済み。
```

バリデーションやビジネスロジックの呼び出し、処理結果に応じた遷移の分岐なども最小限のコードで。

。 常駐型・定期実行型・端末ブート時の自動起動型のサービスのひな型が初めから提供されています。

デバッグ用⇔本番用の振る舞いの切り替え。設定項目ないしアノテーションだけで可能。

非同期タスク利用時にも、処理のフローが明白になるようにコードを記述できます。

本フレームワークには、下記の物も付属します。 サンプルのミニプロジェクト付き 。 今すぐ実機上で動作します。

開発に必要な各種のアイデアを提供

。 アプリの標準的な設計パターン。

ドキュメントやリファレンスなどの開発情報

本フレームワークのリファレンスとして利用できます。

。 コーディングスタイル、命名、パッケージングに関する自然な規約。

。 公開サイトや開発ブログを通じて、情報が逐次提供されます。

フレームワークは、パッケージ内で参照が自己完結しているため、サンプルプロジェクトは丸ごと削除できます。

。 Android SDKを効率よく利用するためのDSL。ご関心があれば、各種の基底クラス内部をご覧ください。

```
本フレームワークのロードマップ・イメージは、上記のいずれの名称も包含します。
```

プロジェクトの状態

名称は「Android-MVC」です。

「Android-Struts」。

「Android on Rails」。

```
しかし、いずれの名称も本フレームワークの性質と目標をじゅうぶん的確に言い表してはいません。
```

また、Webアプリケーション開発のワークフロー・設計パターン・アナロジー等を、Androidアプリケーション開発に丸ごと移植 する事はできないためです。

• 加えて、英語版でのドキュメンテーションも実行し、本フレームワークを世界に発信します。

したがって、現時点での最も適切な名称として、「Android-MVC」としか表現できないのです。

StrutsにはORマッパは含まれておらず、またRailsのクライアント層もjQueryとは別物だからです。

では、皆様がよいAndroidアプリ開発を楽しまれる事と、Androidワールドのさらなる発展とを願いつつ。

supported by oisys.co.jp,

© 2020 GitHub, Inc.

どうぞお楽しみに。

presented by id:language_and_engineering,

本フレームワークは今後、あたかも下記のような名前を持つかのようなツールとなってゆくでしょう。

メジャーバージョンが0から1に上がり次第... GitHubへ移行する予定です。

licensed under Apache License 2.0,

Contact GitHub

Pricing

Training

About

and thanks to Google for Android & GoogleCode!

Privacy